

## 平成28年度第1回小牧市いじめ問題対策委員会会議録

1 開催日時	平成29年3月22日(水) 午後3時から
2 開催場所	小牧市役所本庁舎404会議室
3 出席	柴田委員長、楠本委員、吉川委員、森委員、渡邊委員
4 欠席	なし
5 事務局	安藤教育長 大野教育部長、 伊藤教育部次長(学校教育担当) 中谷学校教育課長 采女指導主事
6 傍聴者	1人
6 議題	(1) 小牧市内小中学校の現状について

<開会 午後3時>

### 1 開会

(伊藤次長)

こんにちは、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、平成28年度第1回小牧市いじめ問題対策委員会を開会いたします。

私は、司会進行を務めさせていただきます、小牧市教育委員会事務局学校教育担当次長の伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

本委員会は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づいて開催するものです。平成27年度第1回の委員会で議決をいただきましたとおり、「個人が特定可能な議題」などを除き、原則として公開とさせていただきます。

従いまして、本日の傍聴の方はお一人でございますのでご承知ください。

それでは開会にあたりまして、安藤教育長よりあいさつを申し上げます。

## (1) あいさつ

(安藤教育長)

この会は昨年度立ち上げ、昨年度末に第1回の委員会をおこなってから丸1年が過ぎます。本市においては、重大事態への対応を必要とすることなく過ぎようとしており、大変感謝をしております。

特に学校現場では、子どもたちと接する教職員が、市内では大きな問題がないということで、重ねて感謝を申し上げたい。

しかし、記憶に新しいところでは、大阪の事案がありました。これについては、担任と自殺した生徒との関係性が問題になってきております。本市では、この事案を受けてすぐに、学校教育課長から市内の全小中学校に対し、子どもたちの命を預かる学校として、今一度、担任と子どもとの関係もしっかりと見てもらいたいという通知をしました。

今回については、今年度の反省ということで、実態をお示しし、アンケートの項目についても一度見直しをかけて、市内の学校がどのようにアンケートをとっていくのがいいのか、委員の皆様のお知恵を拝借しながら、よりよいものにしていきたいと考えておりますので、忌憚のない意見をお聞かせいただいたらありがたいと思います。本日はよろしく申し上げます。

(伊藤学校教育担当次長)

柴田委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。

(柴田委員長)

私は、授業研究を専門にしております、小牧市の学校には時々訪問し、子どもたちの様子を見させていただいております。小牧市は、「学び合う学び」を推進しているということで、子どもたちの関係性が非常に良いという印象をもっています。もちろんいじめという問題は、私達の気付かないところで起きうる問題で、きめ細かく見ていかなければいけないと感じております。先日小牧市の小学校を訪ねたとき、授業で、ある子どもが答えがわかって発言をしていたら、途中でうまく発言ができなくなりました。その時、周囲の子が代わりに答えてあげようとしていました。その姿は、他人を思いやるという、とても大切なことであり、そのような姿が育っているという良い印象を持ちました。その時、担任の先生は、代わりの子にすぐ答えさせるのではなく、最初に発言していた子に対し、代わりに答えてほしいという子がいるけれどどうするかと確認をしました。人前で発言するということは、恥ずかしさを乗り越えて挑戦していることだと思います。リスクを冒して発言している子の尊厳や権利を

先生は尊重している点でいい光景だと感じました。普段の教室で、他人を思いやる、尊重するということが、いじめの防止にもつながっていくのではないかと感じさせられました。小さな目はいくつもあると思いますが、それが重大にならないように私たちの知恵で、小牧の子どもたちのためになるように考えていきたいと思っています。本日の議論が実りあるものとなるよう、皆さんの協力をお願いします。

(伊藤学校教育担当次長)

本日の出席委員ならびに、事務局職員につきましては、お手元にご覧いただけます。配席表のとおりでございます。

なお、4月の定期人事異動で、事務局職員の異動がありましたので、該当職員のみ紹介をさせていただきます。学校教育課長の中谷です。

(中谷学校教育課長)

中谷と申します。よろしくお願いいたします。

<資料確認>

(伊藤学校教育担当次長)

- ・ 次第
- ・ 資料1 「小牧市のいじめの現状」
- ・ 資料2 「小牧市立〇〇学校 学校生活アンケート (案)」
- ・ 別添 「いじめの認知について」
- ・ 別添2 「配席表」

(伊藤学校教育担当次長)

これより議事に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。

柴田委員長よろしくお願いいたします。

## **議題1 小牧市内小中学校の現状について**

(柴田委員長)

それでは次第に従いまして進めていきたいと思っています。

議題の1です。小牧市内小中学校の現状につきまして、事務局の説明を求めます。

<事務局より27年度の説明>

(柴田委員長)

27年度の現状について、説明がありました。質問やご意見がありましたらお願いします。

(森委員)

小牧市と全国の数字との簡単な比較がお手元があれば教えてください。

(采女指導主事)

具体的な数字が今手元にありませんが、小牧市の認知件数は全国と比較して多くなっていると考えております。

(森委員)

小牧市の方が、認知件数が多いということですが、要因や背景を把握されていれば教えてください。

(采女指導主事)

各小中学校においては、冒頭の教育長の話にあったように、教員がこどもたちの様子を授業などで見て人間関係づくりに力を入れていることから、いじめを認知しやすい状況になっているのがあると考えています。

(吉川委員)

複数の小学校区で構成される中学校区の方が、一対一の中学校と比べていじめの認知が多いという傾向はありますか。

(采女指導主事)

その点については調査を行っておりませんが、そのようなご指摘もあると思いますので、また調査させていただきたいと思えます。

(吉川委員)

解消率の推移は、年度でばらつきがあるが、中学校に比べ小学校の方が解消率が10ポイントも低いのはどのように捉えていますか。

(采女指導主事)

ひとつは、中学生になると、発達段階で友人関係を含めた人間関係を上手に

こなせているのではないかと考えています。決して小学校の関係づくりが悪いということではありませんが、様々なトラブルを自分の中で解消することができないなど、発達段階における苦手な部分があるのではないかと考えています。

(楠本委員)

中学生の方が、一般的にはいじめに対して対応能力が上がっているのに、解消率が高くなっているのではないかと考えているのですが、中一で件数が増えものの、中二で減るのはその要因のひとつと理解してもいいのでしょうか。

(采女指導主事)

それもひとつだと考えております。

(渡邊委員)

学年別の認知件数の推移で、小三、小四の23年度から25年度で多かったのが、27年度で少なくなって平均化されているのは、市として何か取り組んだということでしょうか。

(采女指導主事)

市として何か手を打ったことということはありません。過去五年間の数字から、三、四年生が多かったという実績を、担当者が集まる機会などに説明したことはあります。九歳の壁と言われていることもあり、対応した学校もあるかもしれませんが、具体的には把握しておりません。

(柴田委員長)

統計の取り方ですが、例えば平成27年度の小学校は約30%が解消後支援中か指導中と、まだ何らかの支援、指導が必要な事案だと思いますが、過年度の認知事案についての解消率はどうなっていますか。

(采女指導主事)

過年度に把握したものについても、当該年度の事案としてあげております。ただ、学級内の関係における事案については、学級編成が替わることによって変わる場合もあります。

(柴田委員長)

それでは27年度につきましてはよろしいでしょうか。それでは28年度の状況について説明をお願いします。

<事務局より28年度の説明>

(柴田委員長)

平成28年度の速報の値の説明がありました。認知を高める取り組みを強化していること、そのためにアンケートについて改善していきたいということで、アンケートの案も示されました。委員の皆様よりご意見、ご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

(森委員)

アンケートの案について、児童が回答する前提として、児童がいじめの定義についてどれだけ理解しているのかが気になります。これは、認知をもれなくするという意味では、児童が定義を理解しているという前提が必要だからです。アンケート案の冒頭の囲みに書かれている内容を一読しただけでは、児童が正確に理解できるか問題です。いじめとはこういうものであるとか、アンケートとは別に、周知や教育が行われる機会があるのか教えてください。

(采女指導主事)

各学校で、具体的にいじめをテーマに道徳や総合的な時間で教えている学校も全てではございませんが、あります。市、学校をあげていじめを無くしていく取り組みを行っておりますので、日々の活動の中でいじめは良くないことであると周知されていると考えております。

(森委員)

別添資料の事例を読んで、これがいじめだと大人でも断言できない。大人でも理解できないのに、子どもが判断できるか疑問である。私が提案したいのは、アンケートの前に、いじめとは何かという説明の機会を設ける、あるいは、アンケートの中でいじめという言葉を使わないというものひとつです。

(采女指導主事)

参考にさせていただきたいと思います。

(柴田委員長)

事務局も参考にしてくださるようお願いいたします。

(楠本委員)

回答は基本的に匿名になりますか。

(采女指導主事)

今年度は記名、無記名、家で記入、学校で記入など、学校によってまちまちになっております。

(楠本委員)

来年度以降統一する考えはありますか。

(采女指導主事)

このアンケート案は氏名欄を設けておりません。記名の必要性、記入する場所など、先ほどの森委員の意見も含め、議論をいただき、それについて、担当者が集まる場で、もう一度練っていきたいと考えているところです。

(楠本委員)

記名、無記名であってもそれぞれ難しいと思います。問9や問10では、伝聞の場合の取り扱いが難しいと思いますが、原則どのように対応していますか。

(采女指導主事)

伝聞であっても、教員はアンテナを高くして見ていかなければならないので、書いた本人が特定できなくてもそのような目で見ていきます。

(渡邊委員)

アンケートの目的は何ですか。保護者にどのように理解を求めていくのですか。

(采女指導主事)

目的については、アンケートを通して実態を調査する。アンケートをすることによって、いじめ撲滅への啓発をしていく。項目に書かれた、ひやかされたり、からかわれたりといった、相手が嫌な思いをしていれば、それがいじめだと理解し、場面や相手の事を思って話しをするという意識を育てることはいじめの撲滅へとつなげていく。問12、13のように、学校生活全体で、子どもたちが自助努力していく、実態を把握しつつ、次のいじめをなくしていくことを目的としております。

保護者への周知は、既にこれまでも、各校最低3回は実施しており、保護者への周知はされているものと理解しております。

(渡邊委員)

アンケートによる認知とは、このことでよろしいのでしょうか。

(采女指導主事)

28年度まではそれぞれの学校で実施していたアンケートで認知したものです。

(渡邊委員)

無記名だと、誰が誰にいじめ行為をやっているのかわからないのではないのでしょうか、そうだとすると、認知や解消とはどのようなものになるのでしょうか。

(采女指導主事)

記名式となると、本当の事が書けない。一方で、無記名だのご指摘のとおりです。そこで議論が必要になる。デリケートな問題なので、記名がいい場合、無記名がいい場合と、子どもたちの生の姿の中で、分けて考えていく必要もあると思います。

(渡邊委員)

アンケートで深刻な状況が出てきた場合、担任がどのように探っていけるかの方法論になりますが、難しくなると思います。

(采女指導主事)

このことによって、クラスにいじめがあると教員が捉えて、子どもたちの様子を見ていくことが大切であり、小さいうちに止めることが可能になります。メッセージを全体で受け止め、誰かということも大事ですが、そのような行為がこのクラスにあるという事実に向け、対処していくことが必要だと考えております。

(渡邊委員)

要望ですが、このような形で認知したら、このような対処をし、このように解決できた、個人が特定できた場合やできなかった場合などの具体的な事例を出していただくことはできないでしょうか。

(采女指導主事)

参考にさせていただきます。

(安藤教育長)

アンケートの狙いは抑止力にあると思っております。

(中谷学校教育課長)

つい最近まで学校現場にいた立場で話させていただきますと、アンケートによる把握は全体の把握の一部である前提となりますが、実際は記名させる対応も多いと思います。その場合は大変神経を使います。子どもたちに用紙を配ってよく説明し、封筒まで配布し、家で記入し封入して教員が集める。このような調査の場合は、誰が誰にいじめを受けているのか具体的にできるので、まずはいじめを受けている方の聞き取りを必ずおこない、名前があがってきた場合は絶対に放っておかない。その実態に応じ、保護者と一緒になって解決に向かうのか、子ども同士の関係性の中で解決していくのか、学校の教職員も協力し、全校体制で行っていくものか。各校にもいじめ対策の組織があり、組織で共有しながら対応していく。

アンケートが学校ごとに異なっていたので、認知をきちんとおこなっていくために、アンケートについて検討を進めているところです。

(柴田委員長)

記名か無記名かは選択でいいのではないかと思います。自分を助けてほしいというメッセージで書く子もいるし、今は名前を明かすことができないが、いじめがあるということを知ってもらいたいということもある。そのニーズに合わせて選択することもあるかも。

表記で気になったのは、問4は、問2で「ある」と答えた人が記入するなどの部分に下線が引いてあるが、この問いはどれに答えた人がどれに答えるのか、より強調した表記にした方が、書きやすくなると思います。

(采女指導主事)

参考にさせていただきます。

(楠本委員)

森委員から事前の指導の件、渡邊委員から具体的な事例の件がありました。市教育委員会しかできないこととして、各校でどのような予防的な取組みをおこなっているのか、解消に向けてどのような支援が有効であったのか、有効な実践をとりまとめて各校に周知することも予防や支援の参考になるのではないかと。

(楠本委員)

重大事態が起こった時に、調査の目的でアンケートをとる自治体がありますが、そういった場合は無記名の方が重要になります。一方で、重大事態がおきから、アンケートを実施するまでに間隔があくと、生徒同士の情報交換や、噂が広まることによって、正確さが落ちるという事も聞きます。あつてはならないですが、重大事態が発生した際は、初動の調査でどのようなアンケートを実施するのか、記名か無記名か事前に準備しておいた方がいいのではないのでしょうか。

(安藤教育長)

そのような事案が発生した時というのは、タイトなスケジュールでアンケートを行うことになるため、時間があるうちに考えておく必要があります。

(楠本委員)

既に前例があると思いますので、情報を収集されると参考になるのではないのでしょうか。

(柴田委員長)

議題1についてありがとうございました。

いじめの定義を周知する方法や事例を各校で共有する重要性について意見が出ましたので、事務局で検討をお願いします。

予定された議事は終了しました。事務局にお返しします。

(伊藤学校教育担当次長)

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

これもちまして、小牧市いじめ問題対策委員会を閉会いたします。